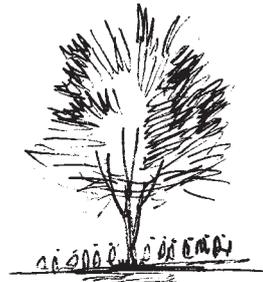


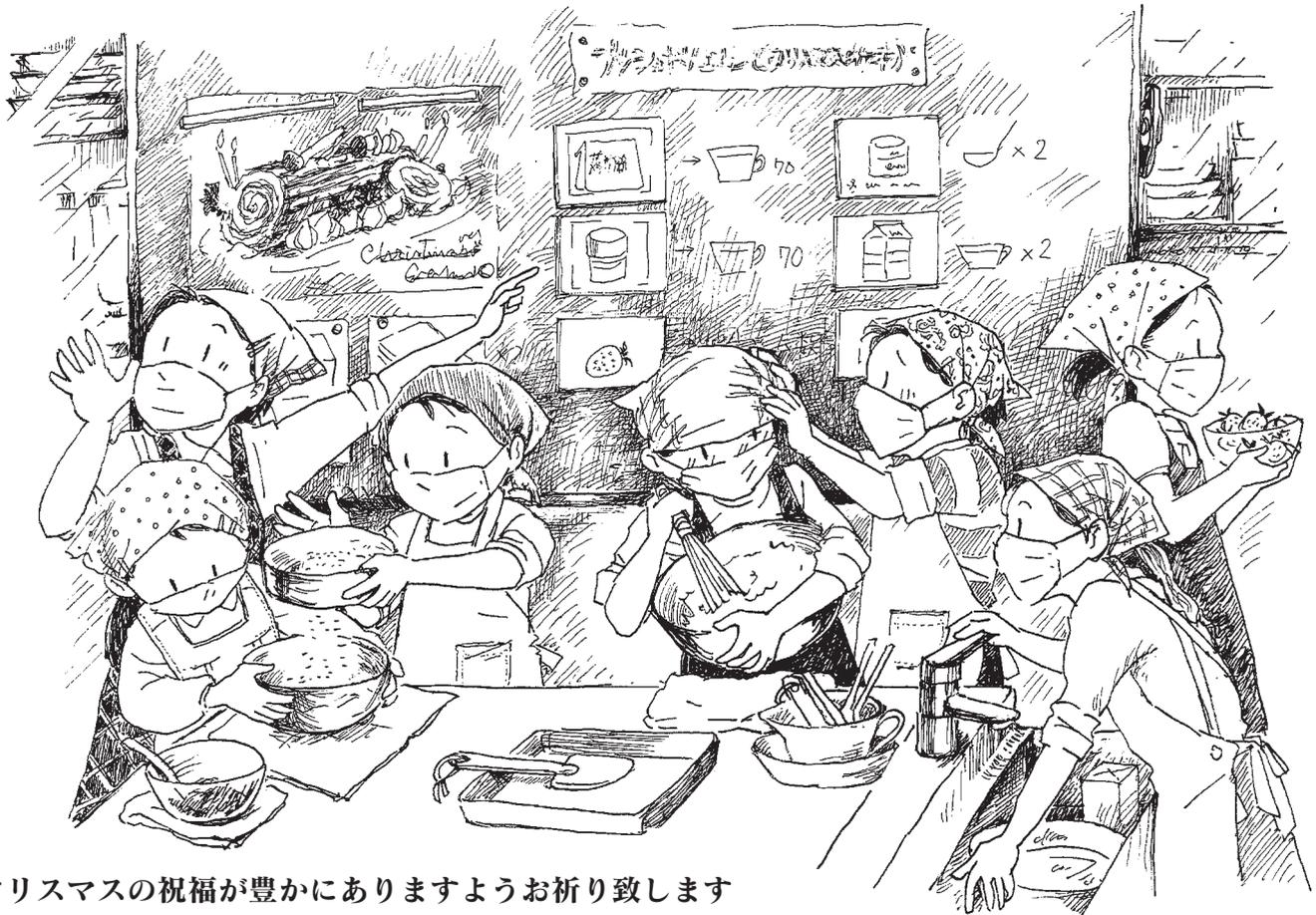
光の子



No.203 2021.12.10

●年間聖句 知る力と見抜く力とを身に着けて、あなた方の愛がますます豊かになり、本当に重要なことを見分けられるように。

(フィリピの信徒への手紙1章9、10節より)



クリスマスの祝福が豊かにありますようお祈り致します

社会福祉法人 光の子どもの家

「ブッシュドノエル」

表紙絵・中島由起子

利根の上

死後といふひろがりありて

空の秋

音ひとつつづきてやまず

落とし水

どう見ても赤すぎる赤

まんじゅさげ

東海に出て野分晴まさに紺

仲秋の名月利根の上に出る

今は亡き人の笑顔のごとき月

霜月の明日の光をまねく子ら

落合 水尾

(「浮野」主宰)

「弱さの強さ」

聖学院大学名誉教授
北本教会牧師

阿部 洋治

新約聖書の一節に、「最後に言う。主に依り頼み、その偉大な力によつて強くなりなさい」(エフェソ書6・10)とあります。カルヴェンはこれに触れて記しています。「なぜなら、われわれを弱めるものがつねに数多く存在し、これに抵抗すべきであるのに、われわれにはほとんど勇気がないからである。しかし、われわれの弱さはあまりにもはなはだしく、もしも神がわれわれを助けられなければ、また助けようとして手をのばしてくださらなければ、あるいはさらに適切に言えば、あらゆる力を与えて下さらなければ、このすすめもあまり役に立たない」と。

「強くなりなさい」は、原文では、「強くされなさい」と受け身で記されています。努力して、頑張つて、力んで強くなれということではなく、イエス・キリストに結びつく、繋がる、頼ることで「強くされなさい」と促しているのです。

聖書は別の箇所にも、「キリストは、弱さのゆえに十字架につけられました。神の力によつて生きておられるのです」(第二コリント13・4)とあります。キリストの「弱さ」は、生まれの卑しさ、貧しさ、惨めさのことです。彼は、ナザレの村の木工。学問を積んだ人ではない。キリストがカファルナウムで宣教活動を開始した噂を聞いた母や兄弟たちが、イエスは気が狂ったと思つて取り押さえに出向いたのはそのためでした。人前で教えを語るような者ではないのに教えていたからで

す。このように、キリストは、そうした卑しさ、貧しさ、惨めさの故に辛い思いをされた方です。それだけに、「キリストは、肉において生きておられたとき、激しい叫び声をあげ、涙を流しながら、御自分を死から救う力のある方に、祈りと願いとをささげ」られたのです(ヘブライ書5・7)。

それなら、「弱さの故に十字架につけられた」キリストに結びつき、依存することで人はどうして強くされるのでしょうか。人は、「弱さの故に十字架につけられた」キリストにおいて、弱い自分を受け入れることができるからです。否、「弱さの故に十字架につけられた」キリストこそ、弱い私たちを受け入れて下さるのです。私たちは、受け入れられることによって、弱い自分を受け入れることができるようになるのです。

かつて、カール・バルトは記しました。「キリスト者は自分の弱さと愚かさから全速力でキリストへと逃亡中の人間のことである」と。自分の弱さ、惨めさ、虚しさに留

まっついてはならないのです。そこからキリストへと逃亡する。そして、「主よ、助けて下さい」、「主よ、憐れんで下さい」と叫んで、弱く、惨めで、虚しい自分をキリストの前に投げ出すのです。何故弱いのか、何故愚かなのか、何故虚しいのかと問い続ける限り、人はそういう自分を拒否しているのです。弱さ、愚かさ、虚しさに倒されているのに容認できず、無謀な戦いを自分に課しているのです。その戦いはより一層傷を深めることになるだけなのです。



アドベントクラウン

無胃人の弁 (5) 来し方

老健施設紅寿の里 施設長 仙道 富士郎

斎藤幸平著『人新世の「資本論」』というベストセラーを読んだ。34歳にして国際的にも名の売れた哲学者らしいのだが、その堂々とした語り口を見て、「こんな学者がわが国にも育ってきたのか」と感慨を深くした。もともと、彼は高等教育のほとんどは、米国、ドイツで受けており、これまでの活躍の場もヨーロッパだったのだが。

それは、利潤のみを追求しなければ成り立っていない現存の資本主義を否定する内容であり、マルクスの若いころの論理をベースにしている。ただ、マルクスをその創始者とする社会主義・共産主義は、それに至る過程に革命を想定しており、実際にロシアや中国において革命が起こったわけだが、そのプロセスを著者は追認しているわけではない。彼は、いわゆる一般市民が積み上げていく協同組

合様の組織を基盤に置いた下からの改革を考えており、その点は従来の社会主義思想とは根本的に異なる。

なぜこんな難しい本がベストセラーになるのか、いまだに釈然としないのだが、私にとつては、この本は、20代から30代にかけての自分の精神史を思い出させてくれる、格好の機会を作り上げてくれた。

一年浪人して北大に入学したのだが、折しも60年安保闘争の真つただ中であり、私はアツという間もなく、その中に巻き込まれていった。「巻き込まれた」という表現は、まさに私の当時の精神状況を示す言葉としては適切だと思ふ。私はなにも高邁なマルクス哲学を理解して、運動に加わったわけではない。ただ、そこでも幸運だったのは、その集団の中心に居た人たち、いずれも他界してしまっ

たが、唐牛健太郎、島成郎、青木昌彦といった、歴史に名を残した、極めて良質な人間達であったことである。

その人たちに導かれる形で学んだのが、マルクスの初期の思想であり、そこには、「皆好きなかだけ働いて、好きなだけ取る」という共産主義の理想が記されていた。私はその発想の素晴らしさに狂喜した。本棚から探した当時読んだマルクスの本には、ぎつしりと赤線が引かれてあり、書き込みもたくさんあった。しかし、現実の運動は、そんな理想像からは遠く離れていて、内ゲバと称される仲間同士の殺し合いが始まった。私はそのころはもう運動から離れていたが、そうした実情に嫌気がさしたからなのか、自分の怠惰な気持ちに由来するものなのか、今でははつきりしない。

は散々こき下ろされることになる運動であったし、その中に身を置いたことは、私の人生の大きな負の部分を作っていると思っていた。しかし、二度読み通した斎藤幸平の本の記述を参考にして振り返ってみると、私の参加した運動は、少なくとも当初は、学生たちの初々しさを秘めた、現在の新しい社会の方向性につながる社会運動であったことに気づかされた。

利潤だけを求める、現在の資本主義の姿を是としない考え方は、世界の政治の中で広まりつつあるだけでなく、思想界の中でもかなり有力になってきており、件の斎藤氏もそうした考え方を展開している学者たちの中の、有力メンバーの一人ということらしい。

ロシア革命による社会主義国家設立を端緒とする、多くの社会主義国家の勃興は、不平等の是正という成果を現出はしたが、一方で、権力による社会の統制という、いわば後ろ向きな社会構造を作り出さざるを得ず、決して理想社会に一步近づいたとは言えな

い状況だったような気がする。そうした中で、資本主義の矛盾を克服し、より平等な社会を構築しようとする新しい試みが、人間社会に生まれ

くれまで(2)

名誉理事長 菅原 哲男

つつあると、今の社会を読み取りたい。人間は、「行きつ戻りつ」の中ではあるが、少しずつ利口になっていくのではないだろうか。

私は、秋田の山村で、戦時色に染まった昭和10年代半ばに生まれた。昭和20年に敗戦になって、生活物資が極端になくなり、必需品が配給制になるといいう貧しさの中で、学童期を過ごした。乳幼児期は、虚弱体質で多くは育てないだろうといわれていたという。そのため母はひどく心配して庇ってくれた。家族の中で母親と姉が何くれと面倒を見てくれた。お前は力仕事には耐ええないだろうから勉強をしなければならぬといわれて育てられた。

どもは愛されなければ十分に育つことはできないという私の心情を形作っているのである。光の子どもの家を立ち上げて40年が見え始めた今も褪せることのないこの施設の風景である。

施設に子どもたちは独りで、単数でやってくる。たとえ同胞とやってくる場合でも独りなのである。

本来子どもとは複数名詞なのである。親たちはParentsで複数、子どもはchildと単数もあるが本来的に親に対応している存在なので複数詞でなければならぬ。その存在の根底から大人たちによって支えられなければならぬのである。

今は施設にやってくる子どもが多くが虐待による入所なのだが、私が児童養護施設に関わった頃は虐待という言葉がなかった。家庭養育不適などが殆んど理由となっていた。

今では考えられないような僅少な措置費(公的な費用)であった。最初に迷い込んだ神奈川の施設では、当時の女性の施設長が飼っていた犬の食べるえさを物欲しそうに子どもたちが眺めていたし、登下校の途中にある畑から大根やニンジンなどを取って上手に泥をよけて生のまま食べている子どもたちが大半だった。その故もあって地域の大人たちから子どもたちは嫌がられていた。だから地域への取り組みは施設の子育てではなくてはならないはたらきだったのである。スポーツ少年団などの活動は、若い職員たちの働きの大切なものだったのである。

家族と共にする養育でなければ不全なのだと考え、家族との関わりを追究することが必須となるのである。

子どもたちの家族に施設の職員が仕事として関わるということは、それが本来児相の仕事であったことだったのでトラブルになることもあった。

しかし、児相のはたらきと施設のはたらきがお互いに干渉しあって大きな効果を上げることがほとんどであった。

光の子どもの家を立ち上げて、間もない頃、児相の福祉司と共になかなか難しい親のいる団地のような家を訪ねたことは今も鮮明だ。

子どもの成長段階の説明を福祉司がして、だからあなたの子どもはあなたと一緒に生活しているが、父親がいたらもっと明るくなるだろう、といったようなことを説明して、結局夫婦を元の鞘に収めたことはかなり有効なはたらきだったと思っている。

しかし、別れなければならなかった夫婦が元の鞘に収まれば万事うまくいくわけではないことはたくさん関わっ

た事例が明かししているのがあるが。

それでも折を見てはそばを通ったからと言って訪ねたりしながら、小学生の女子が中学の終わりごろまで関わり、高校に入学を果たしたところまで伴走することができた。その縁もあり今でも季節の便りを交わすお交わりに入れていただいている。

その福祉司も、今はかなり出世もされて高度なおはたらきをなさっておられる。こうしてみると、はたらきの場には表れない、たとえば私の幼少期や、どこで育ったかなどは関わりのないものであるのだが、人の子どもに関わることは、その生涯に関わることでもあるのだ。したがってそのような思いや覚悟がないと子どもに関わることはできないものである。当然単独でそんなはたらきができるものではない。はたらき人の総力と総意を集めてこそそれは可能になるのである。

ムツチャンの死から

彫刻家 中島 睦雄

学生時代の同級生、親友のS君から電話があった。

「ムツチャンが死んじゃったんだよ。オレは知らなかったんだ」と。

ムツチャンとは私である。

「何言ってるんだよ。オレはまだ生きているぞ」と言う。「すまねえ、すまねえ、大坂君だ。大坂君がああ世へ行っちゃったんだ」と言い直した。

これは、親友の大坂弘道君の死を私に伝えようとして、間違って私の死として電話してしまったのであった。

しかし私は、大坂君の死について、東京の知人から少し前に聞かされていたのであった。

大坂君は昨年9月25日に亡く



誕生会でタンパリン芸

なり、27日の新聞に報じられていたという。

私は図書館へ行って27日の新聞を確認した。

やっぱり!と思った。

工芸に於ける人間国宝になつていた大坂君だから新聞が扱ったのであろう。

実は彼の死の少し前に、私は彼に米を少し送ったのだが「受け取り人が不在で……」と連絡があった。その後彼の弟さんが受け取ってくれたようであった。

まあ辻褄のある流れであった。

おそらく彼の死は、友達にも知らせられなかったものと思う。

彼は鳥取県の出身で、倉吉市の名誉市民にもなっていたから、生まれ故郷の方で何らかの形で送られたのだと思う。

そんな訳で大坂君はあの世へ行ってしまった。良い友を失ってしまい非常に残念である。改めてご冥福を祈らせていただく。

ところで私は、この世に居ながらS君に、死んだことにされてしまった。

人間は、一度死ねば、二度と死ぬことはあるまい。

したがって、私は一度死んでいるから、これから先永遠に死ぬことはあるまいと思っている。

めでたし、めでたしである。

※近藤みちる

「共育ちカンガルー日記」は休載です。

子どもたちのかがやきとともに

— 光の子どもの家をお支えください —

コロナウィルスに翻弄された2021年も、あとわずかとなりました。コロナ禍による影響はひとりひとりの精神的な面だけではなく、計り知れないほどの社会問題を生じました。

そのような状況においても主イエス・キリストのお誕生日であるクリスマスのお祝いを心待ちにできる喜びを感謝いたします。

子どもたちと生活を共にしている、ここ「光の子どもの家」での暮らしも様々な面で影響を受けてきましたが、幸いなことに子どもたちの元気な笑顔と職員一人ひとりの細やかな配慮や忍耐強いチームワークに支えられて、一年を終わろうとしています。

11月3日は、昨年に引き続き皆様に日頃の感謝の意をお伝えする集いを残念ながら、行うことができませんでした。また、6月のバザーもコロナウィルス感染防止のために中止となり、皆様と直接交流できる機会はありませんでした。簡単に、光の子どもの家を応援して下さる皆様に生活の様子をお伝えしてまいります。現在幼児3名、小学生13名、中学生6名、高校生以上11名の計33名が本体施設3軒、分園2軒の計5軒で生活しています。来年3月には3名の若者たちがそれぞれの道に進みます。アフターケアにたくさんの心を配らなければなりません。

「光の子どもの家」が、設立理念である「子どものための子どもの施設」を大切に、可能な限り『家庭的』であることを目指して、この地に開設され36年の歩みを続けてまいりました。その歩みの中には一言では言い表すことの出来ない、子ども達と職員との葛藤や悩み苦しみが有りましたが、それにも勝る喜びや感謝がありました。

その一年一年の積み重ねが、現在の暮らしを造っております。

地域のボランティアの方々、キリスト教主義の学校、多くの教会など個人・団体の直接的な支えのみならず祈りに覚えてくださっている支えに依って、ここまで歩んでくることができました。

改めて皆さま方からお寄せくださる援助に感謝申し上げますと共に、今後も変わらないお支えをお願い申し上げます。

それにもまして、何もない所から皆さまの祈りによって始まった「光のこどもの家」を神さまがここまで守り導いてくださったことに感謝の念でいっぱいです。

皆さまのご健康が守られクリスマスの祝福が豊かにありますように。

社会福祉法人 光の子どもの家 理事長 大高晋一郎
光の子どもの家を支える会 代 表 永野 三恵

郵便振替 00130-1-128022

他銀行からのお振込み

銀行名	ゆうちょ銀行	店名	019 (ゼロイチキューウ店)
預金種目	当座	口座番号	0128022
店番	019	金融機関コード	9900

佐藤家から

主任児童指導員 池田 祐子

子どもたちが通う小学校の運動会。春に実施予定でしたが、このご時世、秋に変更となりました。

一年生にとっては、初めての、六年生にとっては、最後の運動会です。

一年生の彬に「運動会、何やるの？」ときいても、「知らない」と、教えてくれません。

ふとした時に、運動会でのダンスを踊っているのを見かけ、「かわいい！」と、声をかけると、ニコツとしました。が、はずかしくなったのか、それ以上踊りませんでした。

一方、六年生の富士雄、凛、四年生の達也は、先生のダンス動画を見ながら楽しそうに踊っています。

低学年より高学年のダンスは難しく、私がちよつと真似して踊ってみても「ゆうこさん全然ちがうんだけど」と、言われてしまいます。B.T.Sのダイナマイトですから。

毎日のように練習をしているので、運動会当日は、イキ

イキとカッコ良く踊っていました。

家では、ほとんどダンスの練習をしなかった彬もとてもかわいく♪チコちゃんにしかられるう♪と、チコちゃんダンスを踊っていました。

みんな本番につよいなー。

原田家から

主任保育士 岩瀬 志穂

もうすっかり寒くなり冬の到来です。皆様体調など崩されてないでしょうか？

新型コロナウイルスやインフルエンザなどまだまだ心配が絶えないですが、手洗いがいなど基本的な事をやりつつ気をつけていきたいと思えます。

さて、今年もコロナ禍なので光の子どもの家ではクリスマス行事を縮小しつつ、アドベント礼拝やページェント（聖誕劇）の練習や撮影、クリスマス祝会、その中で上映会を行います。

中でも子どもたちが1番期待しているのはやはりサンタさんからのプレゼントでも

う今から話題にでており楽しみにしている子どもたちです。これから暫く、サンタさんはプレゼントの吟味に追われることでしょう(笑)

仙道家から

児童指導員 奥寺 美鈴

仙道家に実習生（女性）が来ました。コロナ禍で中止や延期が続いていたこともあり、立て続けに実習生が来るという形でした。

仙道家は現在男児8人。配属されている女性職員（私も含め）も「女性らしい」という言葉から程遠いところにいるため、心細かったように思ひ、少し反省しています。

女性職員が男児に関わるとき、年少児ならともかく、高学年、中学生、高校生はちよつと格好つけてぶつきらぼうになつたり、そつけなくしたり、コミュニケーションをとるのが難しい。お年頃ですが、今回の実習生が入った日はいつもと違いました。

中学2年の翔平は毎日夕食の後片付けをしてくれているのですが、その日は弟の小3の龍太、そして小6の礼も「俺がやってあげるよ」と食器洗いをしてくれたのです。

実習生はその後の食器拭きをしてくれて、結局、子どもと実習生で全ての後片付けをやってくれました。

その後も子どもとたくさん遊んでいる実習生の姿を見て感心し、一方、子どもたちの様子から、どんな年齢でも、若くて可愛いお姉さんを見ると……格好ついたりするもんだ(笑)男の子だなあ……と内心笑みがこみ上げてしま……

そんな実習生のいる仙道家の日々がありました。



岩 登 り

光の子どもの家の事業計画 (3)

食生活委員会

栄養士 関根 裕介

食生活委員会の活動

私たちが生きていくうえで欠かすことのできないのが毎日の食事です。食生活委員会の役割は、生活に大切な「食」を豊かにしていくことです。具体的な活動は、日常の献立、イベントや誕生会等の献立等を考えることです。

旬の食材を使うことで季節を感じてもらいたい。様々な食文化に触れさせたい。そうして「食」の豊かさを覚えて貰おうと、メンバーが集まり話し合っって試行錯誤しています。

子どものアレルギーや好みを念頭におきながら、苦手な食材や料理もどうやったら食べてもらえるだろうか、食材や調理方法を考えています。

調理のあり方

光の子どもの家は、開設以来、食事は各家のキッチンで作ることを基本としてきました。そうすることで、より一

般家庭に近い生活づくりをしようとしてきたのです。

しかし、夕食づくりの時間は子どもが学校や幼稚園から戻ってくる時間と重なります。調理に手をかけようとするほど子どもに関わる時間が減ってしまう、そんなジレンマがありました。

また、各家の台所も一般家庭に準じたつくりになっているため、十人余りの食事を作るにはコンロの口数も火力も物足りない、という声が職員から上がっていました。

そこで現在、メニューによつては調理スタッフが大きい厨房でまとめて作るようにしています。例えば、揚げ物や煮物などは一括調理にすることが多いです。

一見、家庭的養育を進める流れとは逆行しているように見えるかもしれませんが、それでも、子どもに「せきねちち！昨日の肉うまかつた

よ！」「うめちち、遊びに来て」「ひら、また煮込みが食べたい」などと言われたりすると、ちゃんと作った人の顔が見える食事になっているのだと思います。

施設の規模が小さく、調理スタッフも調理補助に限らず生活場面で子どもたちとたくさん関わっているから、できているのかもしれませんが。

災害対応

今年度は、避難訓練の一環として非常食の炊き出し訓練も行いました。アルファ米をおにぎりにしたり、非常用のレトルトカレーや豚汁を園庭でつくり、昼食としました。

このような試みは初めてで戸惑いましたが、子どもたちが準備や後片付を手伝ってくれたことでも助かりました。災害時はこのように助け合っっていくことが何より大切になってくるので、非常に良い体験だったと思います。

地域とのかかわり

光の子どもの家をご支援くださる地域の方々のご厚意で、サツマイモ掘りやブルーベリー摘み等の体験をさせていただき、子どもたちにとつ

て「食」の見えづらいつころに触れる良い機会となりました。

旬の野菜や果物、お米を届けていただくこともあります。それらを使っておやつをつくったり、献立にない一品を加えています。力強いお支えに食生活委員会として改めて感謝申し上げます。

終わりに

最近では、食べることに困ることもなく、むしろ豊かになつていくからこそ、食事に至るまでの経緯、つまり食材を育て作り上げるところから、調理され食卓に並び口に入るまで、見えない沢山の人が支えられているという意識がおろそかになっているのではと感じています。

豊かさとは、何不自由することなく暮らして行けることもそれに当てはまるのでしようが、毎日の食事を通して、見えない沢山の人の支えられて自分の体の糧になつていくこと、そう思える心の豊かさを育んでいくことも食生活委員会の勤めであり、そうなつていくためにこれからも試行錯誤は続きそうです。

倉澤家から

主任保育士 倉澤 智子

新型コロナウイルスが流行し日常生活が思うように送れず、不自由な生活を強いられてきた子どもたち。子どもたちにとって一番辛かったことは、行動を制限されたことだったと思います。

家の中でできることと言えば、寝るかゲームかユーチューブ。

「ひま〜!」「どこか行きたい」という叫びを何度聞いたことか。

そんな中子どもたちの興味、関心は食べることに。

朝食を食べながら「今日の朝食ごはん何?」

昼食が終わるや否や「夜ごはん何?」と聞かれることもしばしば。

毎日三食作っている担当者にとってはプレッシャーになることもありました。

それでも唯一の楽しみである「食べること」は大切にしようと思ひ、子どもたちの好きそうな献立を考えたり、リクエストに応じる努力をしてみました。

先日、子どもたちそれぞれに、担当者の作る料理ベスト3を選んでもらいました。好みが違うせいか、みんなバラバラな答え。

ちなみに、グラタン、ハンバーグ、ネバネバ丼、和風パスタ、キムチチャーハンなどが選ばれ、中には中華がゆが好き、という子もいました。

そして、全員が口を揃えて「おいしい!」と言ってくれたのがからあげです。「あれは店出せるよ!」「ぜったい売れる」と絶賛!!

誕生会のメニューのリクエストも、確かにからあげはNo.1でした。

そのからあげのレシピは、とりも肉をしょう油、酢、んにくとたつぷりのしょう油がつけ込み、片くり粉をまぶします。ここまでは、他の

方のレシピと変わりないと思えますが、うちでは片くり粉をまぶした後、冷蔵庫で1時間程冷やします。そうすることによって、外がパリパリカリカリになります。そこがこのからあげの一番のポイントでしょうか。

このレシピを子どもたちが

受け継ぎ、自分の家庭をもつたときに作ってくれるようになっていたらうれしいな、そう思っています。

補足

編集委員会から

光の子どもの家の献立は、食事作りを担う保育士・児童指導員が、週替わりの当番制で作っています。栄養士が食材や栄養のバランスを考慮して手直しします。

献立をもとに、食材を卸売御者、八百屋、肉屋、魚屋、パン屋、生協などに発注し、各家に分配します。

週末を中心に「自由献立」の日があります。各家で献立を決め、食材を買い、調理します。

献立が決まっているときでも、家によっては子どもの「アレルギー」「食の好み」で使用する食材や調理方法を変えたり、「誕生会」「外食」などを理由に別のものを作ることがあります。

倉澤が担当する倉澤家



干した傘にかくれる

では、本園の献立ではなく、独自の献立で調理をしています。これは、倉澤家が「より家庭に近い環境で生活できるように」と設けた小規模グループホームであること、1993年以来的の担当者として勤める倉澤が調理を得意とするところが相まって続いていたものです。

倉澤の休日は、調理スタッフが食事作りに入り、本園の献立を調理しています。

クリスマスを活かして

児童指導員 黒川 健一郎

季節毎に様々なイベントがある光の子どもの家だが、私にとって一番のそれは、やはりクリスマスだ。光の子どもの家創立から今に至るまでに携わってきた人なら、誰もがそう思うのではないかと思うくらい思い入れが強い。

というのは実は私はそれを30数年前から体験している。私の年齢は四捨五入して40歳だ（具体的には秘密で）。職員で、しかも40歳の私が30数年前にそれを体験しているのは辻褄が合わないだろうと思う人もいるだろう。

改めて。私は小学2年生の時に家庭の事情で児童相談所に保護され、光の子どもの家に入所、高校卒業時に退所した児童でもあり、その後15年間勤めた一般企業から転職し、この職員となり現在7年目だ。

その辺の詳しい話もここで語る事ができればいいのだ

が、この号は季節的にもクリスマス号として皆さま、拝読なさるのかと。なので、その辺の私情も含めた話は、ここでは「色々あった」という表現にさせていただく。良くも悪くも本当に色々あったので。

話を元に戻すが、光の子どもの家のクリスマスはやはり特別なのだ。理由を具体的に述べても、伝わるのは言葉だけ、体験したとしても、感性は人それぞれかと思われ、で、伝えたくとも伝わらないだろうもどかしさもあるが、一言にすると、「心が洗われる感覚」とでも言っておこう。

当時（昭和後期）の世間一般的な家庭で育った子どもが知るクリスマススの概念は、言わずもなだろう。私もそこから寄りの家庭にいたと思われ。ここではそのような概念

が崩された。まったく知るよしもない過去の偉人の誕生日ということに。そしてそれを世界の様々なところで祝っていたということにも。

ここでの暮らしはそのような概念が崩される事が多々あり、適応するのになりに強く抵抗したことを覚えていて。しかし、私が生を受けた家庭では学ばないであろう様々なことを学ばせてくれたのだなと、卒園後社会に出て、時の流れとともに思うようになった。

そんな私が職員になり間もない頃、様々なはたらきの中でクリスマススの時期の伝統にもなっている事を引き継がせていただくことになる。切り絵と屋外のツリーの設置だ。

光の子どもの家は、敷地中央にある園庭に向いて各建物に大きな窓がある。この時期にはその窓にクリスマススの物語に因んだ手作りの切り絵を創立から貼っている。黒いラシヤ紙のみの至ってシンプルなものだが、障子を透過するやわらかい昭光が映すそれは、この時期の夜にとっても映える。子どもの頃、初めてそ

れを見た日からずっと脳裏に焼き付いている。

ツリーに関しては私が入所していた当時は屋外ではなかったが、本物のもみの木を切り倒して運び入れたり、手作りの飾りを飾るなど、当時の職員の努力が浸みってくる。私が卒園生として訪れていた頃、それは屋外に灯るツリーになっていった。これにもまた感慨を受けた。これらのご事を任されることにとても意欲が湧いてきたことを覚えて

いる。元々趣味として手先を用いることが多いことから、休日をそれに充てることに充実を得てしまい、更にそこに根からの凝り性が加わってしまい、個人的に道具まで買そろえてしまったり。

完成した切り絵は、今までの形を崩さないよう、やはり物語として各棟向かって左から、羊飼いたちの前にお告げを知らせる天使の群。知らせを受けて旅をする東方の三博士。誕生を喜び舞う天使の大群。アドベント毎に物語が完成していくように、そしてラストの第4アドベントには、

一番大きい窓がある食堂に馬小屋にて様々な動物に囲まれているヨセフとマリア。その間には飼い葉桶の中に安らかに眠る嬰兒を。

毎年この時期の礼拝や食卓等で聞かされているクリスマススの物語なので子どもたちにもわかりやすい形になっているのではと思う。

ツリーはイルミネーション要素を含め、子どもたちが、こんなのが家にあつたら誇らしいなと思えるように、何処にもない物をと。何より自身も充実感を得て取り組んでいること、これほど良いことはない。

しかし初めて手がけた物は、時間も無い中で、材料調達も覚えず、庭の隅にある竹を用いての拙く自身で納得い

かないものだった。そんなことからリベンジ(笑)も兼ね、ツリーの片付けと同時に並行で来年のツリーのイメージを始めた。個人的に立体や造形にも興味があつたことから、これもまた手を着け始めると休日をそれに充てることに充実感を得てしまった。

この「光の子」を通してご協力くださった方々からいただいた材料や、個人的に入手した光の角度で色が変わる特殊なフィルムを使い、切り出して多面体に組み、それを量産し、物干し竿で組んだツリー骨組みを覆うように飾る。内部は屋外作業用ライトで下から照らし、光が半透過と反射をするフィルムでできたポール状の飾りを鏤める。これによって下から真上に向かう

光が飾りを透過反射し、様々な角度に散り、ツリーの表面は様々な色を出すことに成功。遊び心から、ツリーの周りを囲う多面体のオブジェの中には12星座の切り絵も忍ばせた。創立から携わった人も含め、光の子ども

の家の全員で迎えるクリスマスという意味を込めた。切り絵は忍ばせたので、一見では分からないのだが、その年に光の子どもの家にやってきた中学生児童がすぐに発見してくれたことに驚きと完成したとき以上の充実感を得た。

一見派手にも見えるツリーだが、光の当て方で色が変わるといふ点は、人間と同様なのではないかと思つた。というの、ここで子どもたちと数年関わってきた中で、子どもたちは職員によつて見せる顔が様々で、そして大人も子どもによつて見せる顔が違うということを経験となく見てきた。これは、人間

社会では普通にあることか



砂場で遊んだ後……

と。人は関わり方次第で有り様も変わっていくこと、そして活かすも、活かさないも関わり方次第なのだ、完成したツリーを眺めつつ改めて思つた。

今一度。私にとって光の子どもの家でのクリスマスはやはり特別であり、心が洗われる時期でもある。今、ここにいる子どもたちにも「心が洗われる感覚」が生まれますようにという願いも込めて、日中勤務で平日はなかなか子どもたちと関わる事ができない私ができるこのような間接的な関わりもあつて良いのではと、自分を少し受容できる季節でもある。

音声検索



日誌抄

2021年9月～10月

【10月末現在の在籍児童数】

幼児 3名 小学生13名
中学生6名 高校生10名
その他1名 計 33名

【9月】

1日 小中学校、オンライン授業開始（10日まで）。ネット環境はあるが、子どもが集中できるかの観点で1・2年と特別支援学級の子は学校の教室で対応していただいたが、1名は実施（16日まで）、1名は延期に
始
5日 19年前に交通事故で亡くなった、かずき君祈念礼拝
高校生の利一がお世話になった乳児院元園長のご厚意で、新しく始めたお仕事をお手伝いさせていただくことに
17日 パントリー、ドライブスルー方式で実施
20日 学生1名実習開始、断続的に10月30日まで
21日 誕生会、8月は中止していたので2ヶ月分合同で。

小学生の礼がタンバリン芸を披露

23日 ゴミ捨てに行ったが大利根クリーンセンターは祝日休みで引き返す。そんなこともある

24日 夕礼拝 木田浩靖牧師（東埼玉バプテスト教会）

30日 火災想定避難訓練。職員の緊急連絡網補助ツールとして導入したLINE WORKSのテストも併せて行う

【10月】

3日 毎年恒例のポートレート撮影。不在だった子どもや休日だった職員は11日に撮影

7日 県社会福祉協議会主催の合同オンライン職員採用説明会に参加

18日 10月生まれの誕生会
19日 各家の昼替えを順次
20日 柴太が自動車学校に入

22日 夕礼拝 木田浩靖牧師
24日 水防避難訓練

【委員会の主な動き】

運営 人事検討 実習生受け入れ開始 児童コロナワクチン接種実行

危機管理 緊急連絡体制の検討 緊急事態宣言解除に併せたコロナ対策変更の検討

避難訓練計画

学習支援 オンライン授業の環境整備と対応

環境整備 剪定、芝刈り、草刈り、ゴミ捨て、雨漏り修理
食生活 献立決め、アレルギー対応

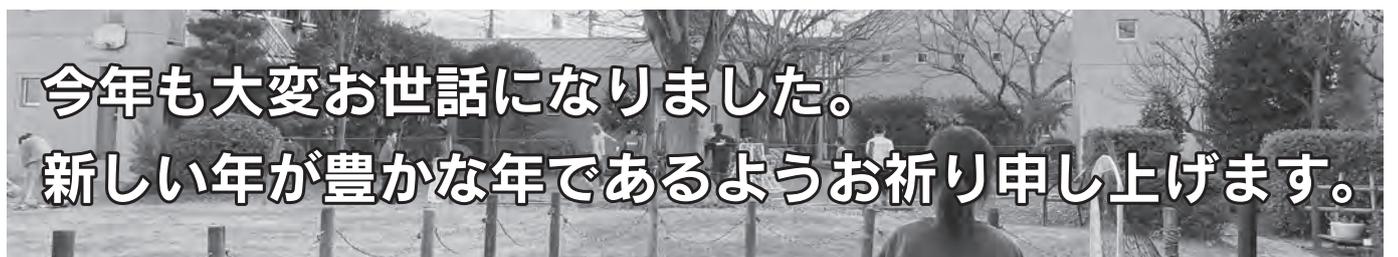
広報 「光の子」編集・発行
情報・通信 子どものネットルール決め少しずつ進める

【研修】

10月14日 遠藤社会保険労務士による管理職研修（仕事、人の管理、ハラスメントについて）

【寄贈者各位】（敬称略）

稲塚由美子 遠藤壽代 工藤みなみ 清水亨桐 鈴木史乃 鈴木富雄 須藤フミ 高橋和男 竹林勝子 長田美紗子 丹羽吉康 保城キイ モラス彩子 和田みゆき (株)IKEA 加納畳店 すくすく広場 高橋会計事務所 チュチュアン ナデリバリーサービス(株) (株)なとり フードパントリー 藤沼畜産 毎味水産株式会社 ユニクロ 他多数の皆様
【ボランティア各位】（敬称略）
〈華道〉岡本有代 〈手芸〉山田智 山田裕子 〈学習〉常松洋介 向井進 他多数の皆様



今年も大変お世話になりました。
新しい年が豊かな年であるようお祈り申し上げます。

【発行】社会福祉法人 光の子どもの家 【住所】〒349-1155 埼玉県加須市砂原277
【電話】0480-72-3883 【FAX】0480-72-6649 【メール】hikarinoko@ceres.ocn.ne.jp
【Webサイト】http://www.hikarinokodomonoie.com/ 【振替】00130-1-128022
【印刷】(株)エル・アートデザイン